

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

平成30年度第1回大分県図書館協議会

2 開催日時

平成30年9月4日（火）10時から12時15分まで

3 開催場所

大分県立図書館 特別会議室

4 出席者（10名中10名出席）

(1) 委員

佐藤委員、栗屋委員、大西委員、古後委員、長尾委員、
富高委員、中井委員、安東委員、岸田委員、後藤委員

(2) 事務局

塩川館長、藤本副館長、佐藤副館長兼サービス課長、
森山学校・地域支援課長、三代総務企画課長、千葉総務企画課主幹 ほか

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

なし

7 議題及び結果

(1) 議題

(議事)

- ア 平成29年度第3回協議会 意見等、当日説明・対応方針について
- イ 平成29年度事業実績について
- ウ 大分県立図書館重点目標の達成状況について
- エ 諮問「所蔵映像資料の保存及び利活用について」
- オ 意見交換

(2) 結果

(議事)

- ア 事務局から報告 原案どおり了承された。
- イ 事務局から報告 原案どおり了承された。
- ウ 事務局から報告 原案どおり了承された。
- エ 委員から諮問事項について発言
- オ なし

8 主な審議内容及び会議録の概要

(議事)

(1) 平成29年度第3回協議会 意見等、当日説明・対応方針について

図書館から資料1について説明。

- 「みんなの読書拡大推進事業」の対象、実施方法、事業の目的、システムの使い方などについて、もう一度説明を聞きたい。

（図書館）事業目的は、たんに「電子書籍の導入」を前提としているわけではなく、いろいろ

な事情で図書館に来れない方。遠隔地に住んでいる。学生で、勉強以外に読書をする時間がとりにくい。障害などの事情で、通常の書籍では読みにくい面がある。などといった、読書環境が十分でないことがある場合などに、図書館が、どのように読書環境を提供していくかということを一つの方法である「電子書籍」を使って調査していくことを目標にしている。

初年度である今年度は、一部の遠隔地、高校生、特別支援学校の生徒を対象に実験に協力してもらい、その結果を有識者会議で検証していくことにしている。

もちろん「電子書籍」の有効性も含めた検討になっていくと考えている。

このように、今年度は、限られたインターネットのサイトで、限られたパスワードとIDを使って、対象の方々に調査に協力してもらうことになっている。

○答申に対する対応の「社会教育主事等の専門職の養成・配置」で、平成30年度から専門職の養成を目指して社会教育行政職員研修から社会教育主事専門研修を独立させて実施している。となっているが、私も以前から、大変重要なことだと考えていた。社会教育が究極的に目指すのは自治能力である。それを支えるのが社会教育主事の専門的な役割だと思う。重要な取組なので、ぜひ頑張って取り組んでほしい。

○平成30年度実施済みの第5回図書館大会では、参加者が前年度から大幅に伸びて200名を超えたとのことだったが、これが、調べ学習支援に学校が反応した結果とするとどのような理由が考えられるか。学校の学びのしかたが大きく変わってくることにも関係しれないが、県の担当としてどのように把握しているか。

(図書館) 学校現場では、新しい学習指導要領の改訂で、主体的な学びにつながる授業ということで、調べ学習をこれまで以上に様々な教科で取り入れていくというような方向があるのだろうと、図書館では理解している。

当館では、5年前から、休館日を利用して調べ学習のために、学校に図書館を開放するスクールサービスデイという取り組みを行っている。

今回の図書館大会では、調べ学習が教科の一環となった時に、それに対応する当館職員の対応力、また、学校の先生、学校司書の方々への支援力の向上が必要になるのではとの視点から、そのような部分を皆さん方で共有しながら考えていくことを一つのテーマとして実施した。

図書館としては、関係者の支援がより充実できる企画も考えつつ施設を開放してお手伝いをしていく。

(2) 平成29年度事業実績について

(3) 大分県立図書館重点目標の達成状況について

図書館から資料2から3について説明

○ふるさと大分の文学者展示コーナーの運営では、大分県出身、またはゆかりのある文学者の紹介・資料展示。これの実績は、例えば来館した中で、これを展示、観賞というか、そういうのが人数出せるかどうか分からないが、どのような反応だったかを知りたい。

また、今後の企画展示では、どのような計画を検討しているか。

(図書館) 実績は、図書館2階の閲覧室にそういうコーナーを設けており、独立したカウンター設備がないため、何名の方が見たかは把握していない。

コーナーの企画は、最初は、大分県内出身の文学者ということで野上弥生子さんをはじめいろいろやっていたが、利用者の方の反応とか、いろいろな社会情勢との絡みもあるし、今年は明治維新150年ということで、今は、福沢諭吉をやっているが、明治期に活躍した大分県関係の方、例えば与謝野晶子とか、ああいう方も来県してたりしてる。そういう関連の書籍等も今年、展示できたらと考えている。

年間計画というものがだいたいあるが、例えばいろんな方が亡くなられたりとか賞を取られたりとかそういうこともあるので、その都度その都度、皆さんにタイムリーなことで大分県関係のことが紹介できればと考えている。

○利用満足度の調査は、回収率が99.0%って、アンケートにしては、すごくいい回収率だと思う。アンケートの実施方法、ここでどういうふうなまとめができていたのか、どういうふうに皆さんが満足をしていたのか、どこのところがもうちょっとっていうふうな声が出たのか、そういうところをもう少し教えてほしい。

また、こういう満足度調査とか、利用におけるどうかっていう調査は、ここに足を運べる方に限定されてしまう。大分市から遠いところとかは、なかなか県立図書館についてどう思うとか、どうだったらもっと行きやすいとか、そういうところの意見って把握できづらいんじゃないかと思う。それで、そういう来館されていない方にはどのような、調査まで行かなくても、どういう聞き取り方とか捉え方をしているのか。例えば、県立図書館は、宅配でたくさんの町村の方と連携を取ってくれていて、それは遠方のたくさんの方が県立図書館まで足を運ばなくても宅配で本を読むことができるということで、たくさんの方が、これを感謝している。そのような視点でも、利用している方にちょっと意見を聞いてみるということもできるのではないかな。

私たちが、図書館の運営状況について、委員としての意見や評価を出すというところが、今回出てきて、とても緊張している。例えば自己評価というところでも、ここで頑張っている皆さんが、ここまでの評価を出して、本当は少し遠慮しがちな評価であるかもしれないが、その自己評価に私が評価をしていくって、とても責任重大だし、難しいことだなと思う。数だけでは見れないところが多くあると思う。例えば入館者数とかは、これから先、もうそんなに増えていく可能性があるのかとも思う。そのような中で評価をするが、例えばさっき言った、ここには足を運べないけど、ちゃんと宅配で読みたい本を届けてもらっていて、県立図書館に行ったと同じ思いをされている人については、もう入館者と同じ思いの方もいるんじゃないかなと私は思う。

そのへんのところで、特に入館者数のところは、どういうふうに考えたらいいか。また、蔵書数については、基準があって、どれぐらいの蔵書を持ってるところが、豊かないい県立図書館だとか判断できる材料があるのか教えてほしい。

(図書館) 利用者満足度調査は、入館された方に直接お願いして回収してるから、ほぼ100%に近い数字になる。当館を気に入って来館している方たちなので、好意的な評価が多い。非来館者調査は、なんらかのかたちで必要だろうとは思っている。

評価だが、ここはあまり肩肘張らずにリラックスしてご意見いただければと思う。図書館のような、イベントを多くする施設でない場合は、入館者が、少しずつ減るのは概ね見える方向性かもしれないが、そうした中で、ごくごく自然体で、50万人という数字についてどう考えるのか。ごく自然な意見をいただければと思う。

蔵書数については、結局、予算の大小に帰結してしまう。110万という図書の数が、皆さん方の感覚からして、ある程度十分なんで、今までどおり頑張れという評価になるのか、それとも、やっぱりもっと頑張るべきだということになるのか、あるいは、蔵書よりもほかのところに予算を回すべきでないのかとか、いろんなバリエーションの意見があると思うので、どうか、本当に肩肘張らずに、正直なご意見を聞かせてほしい。

○評価だが、図書活動の推進で入館者数というところが減っているが、やはり少子高齢化の中で、学生たちも少なくなっている状況だし、人口と比較してみれば、利用率としては、そう下がっているわけではないといった分析もできるのではないかな。

年齢層ごとの利用者数のデータがあれば教えてほしい。

また、登録者数で行けば、それはこうだといった数字での分析はできないのか。登録する時の年齢とかで分析するとか。

(図書館) 来館者の数はカウントしているが、年代別の数字は出ない。貸し出し冊数であれば、大まかな数字は出るが、貸し出し数と来館者数は、別の数値なので使えない。

登録した時点で、いわゆる生年月日と書いていただくので、自動的に年齢が加算されていくわけだが、そういうかたちでなら出せなくもないが、図書館側で、毎年そういうかたちで見ることはしていない。

高齢層の利用者が多い印象だが、図書館としても、どのようにして若年層の子どもさん、就学児童、それから高校生大学生ぐらいまでが利用してくれるかというのは、非常に大きな課題なので、そこは意図して、意識してやっていきたい。

○私が承知しているところでは、大分県立図書館は、九州の中でも蔵書数、購入の予算など、トップクラスだと聞いている。問題は、そういうトップクラスの図書館にどれだけの利用者がいるかということだろうと思う。しかし、その評価を数値ですることは難しい。ただ、大事なことは、少なくとも前年を上回る努力をするということだと考える。

そういう意味では、この評価で言うと、蔵書数は、謙虚にB評価にしているが、これは、Aでもいいのかなど。むしろこの利用者数をどう増やしていくかということにかなり厳しい自己評価をされていて、増やしていく努力をすることを打ち出している。私は、やっぱりどんな場所にあるうとも行ってみたい図書館にしていくということが、基礎的なところになると思うので、引き続き、ぜひ、応援をしたい。

(図書館) 数値的ですが、日本図書館協会が28年度実績で出ている数字でいくと、蔵書冊数は、九州で2番目で、全国で12番目。来館者数は、全国、第9位です。鹿児島県が4位ですが、鹿児島県は横に学習室があり、その横に進学校があって、そのカウントも入っているの、純粹に見れば、まあ、九州でもトップだろうと思う。個人貸し出し冊数は、全国第7位で、九州では福岡県より多くなっている。資料購入費は、少々寂しいが、全国27番目。九州では6番目で、福岡が全国6番。レファレンス件数は、受付件数で、全国で12番目、九州では3番目。人口千人あたりで割ると、全国で7番目、九州ではトップ。

(4) 諮問「所蔵映像資料の保存及び利活用について」

図書館から資料4から6について説明

○保存のためにも、活用のためにもデジタル化が最適である。

原本フィルム等の保存は、温度、湿度管理がされた現在の方法でよいと考える。

○現代の子は、映像世代なので、映像を見せると理解度が全く違う。文字だけではなかなか理解できなくても、画像や映像なら、容易に理解してもらえる。

方言、民謡の記録とか、校歌なども貴重な資料だ。

校歌は、応援歌として歌ったり、旧制中学の校歌を歌わせたりすることもあるが、難しい。やはり耳から目から入ってくると非常にありがたい。

学校では、教材として使わせてもらいたい機会が相当にあると考える。

学校現場に、出来るだけ簡易な手続きで貸し出してほしい。

○活用の面では、ぜひフィルムと違って取扱いが容易なDVDにしてほしい。

特に小学生は、3、4年生から郷土のことを学ぶので、映像で見せるのは非常に効果的だ。

もっと郷土愛が強まるし、いろんなことを、この映像を通して学ぶことができると思う。

小・中・高校には、ぜひ貸し出しをしてほしい。

○貴重な資料だが、活用するにはDVD化するしかない。

○今回の資料は、団塊の世代も入った非常に人口が多い時代のもので、大変興味深い。

活用の方法として、例えば、大分県立図書館主催とか、県主催で、湯布院映画祭のように大分県所蔵映画祭のようなかたちにすれば、非常に人は集まるのではないかと思う。竹田市の取組みでも、市民がとっても楽しみに見られるという話も聞いた。同じようなことができれば夢があっていいと思う。

○テレビ局では、何らか、取材の対象になったり、番組の企画に生かせないかと考えるのではないかと。提示すれば、興味関心の中で、協力してもらえる部分は、あるかもしれない。

○もちろん学校、子どもたちに見せるのもそうだが、普通の人たちが、ほんとに見たいと思う。一般公開するのは、いろんな問題もあるかもしれないので、先ほど意見が出た映画祭のようなものもいいと思う。

また、各地域で、その地域のお祭りなどの催しの時に地域の方々と一緒に見れる状態にするよう取り組んでもいいのではないかと。

活用には、16ミリフィルムそのものを映写する方法もなくはないが、資料として保存価値がある16ミリフィルムを簡単に、プロでない人が映写するなどの取り扱いをしていくと、フィルムの劣化は避けられないのが基本なので、デジタル化するのがいいと思う。

映画に携わっている者としては、より多くの方が何らかの手续、あんまり難しくない手続を経て、気軽に見れるようにしてもらおうと思う。デジタル化というのが、保存、公開、見せていくという目的に対しても最近いちばんいい。

資料現物の保存の流れとしては、デジタルアーカイブ化をして、残ったものの保存、フィルムの現物の保存というのは、今の状況でもいいと考える。

○事務局においては、諮問事項に関する答申案の作成をよろしく願います。

(図書館) 諮問事項については、たくさんのご意見ありがとうございました。また、評価等についても様式を送らせていただきますので、ご意見よろしく願います。

(5) 意見交換

意見が出尽くしたこと、予定時間を超過したことから、議長判断により、改めて行わず。

9 会議の資料名一覧

(1) 平成30年度第2回大分県立図書館協議会資料

(議事)

ア 平成29年度第3回協議会 意見等、当日説明・対応方針について

・平成29年度第3回大分県立図書館協議会 意見等、当日説明・対応方針

イ 平成29年度事業実績について

・平成29年度事業実績

ウ 大分県立図書館重点目標の達成状況について

・大分県立図書館図書館運営の状況に関する評価

エ 諮問「所蔵映像資料の保存及び利活用について」

・諮問「所蔵映像資料の保存及び利活用について」

・資料の保存状況について

・資料の内容について

10 問い合わせ先

担当課 大分県立図書館総務企画課

電話番号 097-546-9977